



川下小 開校150周年だより

令和5年7月号

No. 4

記念事業実行委員会

川下小学校の校章

今号では、川下小学校の校章について紹介します。

まず、校章とは、その学校を象徴するためにデザインされたシンボル・マークのことであり、その学校への所属を表したり、他校との識別のために使われたりしています。

川下小学校では、正面玄関に取り付けられているほか、講堂の幕、校旗、国旗掲揚台、名札、帽子、体操服などに用いられています。

次に、いつ作られたのかということについてですが、はっきりとした記録を見つけられませんでした。



正面玄関



講堂の一字幕



校旗



国旗掲揚台



昭和28年度卒業アルバム

本校に残された、最も古い卒業アルバム（昭和28年度）の表紙には、校章が用いられており、校旗の写真も掲載されていました。現在使用している校旗は、平成元年度の卒業生から卒業記念として寄贈していただいたものですので、昭和28年度の卒業アルバムに掲載されている校旗は、先代の校旗だと考えられます。資料室には、先代の校旗が今でも大切に保管されています。校旗には、「岩国市立川下小学校」と記されていることから、戦後、学制が新しくなる昭和22年以降に作られたものだと分かります。学校に残されている校章の中では、この校旗にあるものが一番古いものになります。

最後に、校章に表されているものについてですが、

こちらもしっかりとした記録を見つけることができませんでした。以下は、筆者の想像になりますが、校歌の3番に歌われ、校庭に植えられた桜の花びらで縁取られ、その内側には川下小に集う児童の融和を示した輪と、川下地区の象徴であるデルタ（三角州）を表した三角形、その中には文房具であるペンと2枚の三角定規が表されています。川下小の子どもたちがいつまでも仲よく勉学に励んでほしいという、校章に込められた先人の思いが伝わってきます。



資料室に保管されている先代の校旗